しわネット

2004 6月

ポータルサイト　http://www.town.shiwa.iwate.jp/　No.649　発行＊岩手県 紫波町

特集

「紫波町防災マップ」同時配布

万全ですか？ 災害への備え

6ページ
環境ミニ特集
循環型まちづくりの成果　ほか

10ページ　宮澤賢治の友人
かとうじ物語

11ページ　上手に! 元気に！
介護保険

胡堂と啄木のふるさと交流演奏会

Shiwaウインド・アンサンブルほか町内外の演奏家によるコンサート

発足から６年目を迎えるShiwaウインド・アンサンブル（SWE・紫波町民バンド）は、町内外のバンドと共にコンサートを開催します。「胡堂と啄木の心を結ぶ」をテーマに、熱心に音楽活動に取り組んでいる人たちの日ごろの練習の成果を皆さんでお聴きください。

日時　６月20日（日）、午前10時～正午
場所　サン・ビレッジ紫波（入場無料）
出演　ビック・サウンズ姫神（玉山村）
紫波総合高校吹奏楽部
紫波一中吹奏楽部
Shiwaウインド・アンサンブル

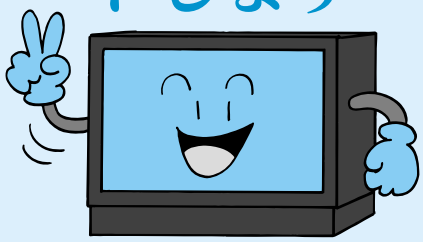
Shiwaウインド・アンサンブル 団員募集！

毎週木曜の午後７時から９時までの２時間、中央公民館で笹田宣昭さんの指導のもと、さわやかで楽しい吹奏楽の演奏を学んでます。会費は月額500円。楽器をお持ちの人はお持ちください。

問合せ・連絡先　SWE事務局☎676-2838（佐藤時計店）／ホームページ http://www.shiwanet.com/swe/

町議会の実況放送がスタートします

紫波町議会の本会議の様子を、６月定例会から地域公共ネットワークで実況放送します。地区公民館や野村胡堂・あらえびす記念館、役場１階ホールに設置された大型ディスプレイで視聴することができます。放送日時は議会日程が決まり次第「ポータル紫波」（http://www.town.shiwa.iwate.jp）でお知らせします。



〈町長メッセージ〉

情報公開のまちづくり

町民・企業・行政が三位一体となっての発展こそ「まちづくり」の第一歩です。そのためには、町政が密室で行われることなく、常に情報を公開し自由に意見を出し合い、町政に生かしていく必要があります。

情報誌は、「しわネット」を月２回発行しています。行政区長のご協力をいただき全戸配布し、町の施策や事業、広域のイベントなどを情報提供しています。先月からは一方的な情報提供だけでなく、私に対するご意見も直接いただけるよう工夫いたしました。どうぞご家庭で内容を話題にされ、ご意見をお寄せいただきますようお願いいたします。

インターネットのホームページでも随時情報を更新しております。昨年整備した地域公共ネットワークは町内公共施設で、だれでも自由に手軽に見ることができますので、多くの皆さんに活用していただきたいと思っています。私の有線放送「町長さわやか対談」の内容も放映しており、音声だけのときとは異なり、緊張して責任の重大さをますます感じながら収録しています。

また、町議会本会議の様子も六月定例会から放送される予定です。議場で傍聴しなくとも各地区公民館でご覧いただけます。

情報公開は広報媒体を利用することから、時には誤解を生む可能性を持っています。「ありのまま」を目標としての公表ですので、皆様からは我々のまちづくりを目指す協働の視点から、建設的なご指導、ご助言をいただきたいと思います。共に発展できる「まちづくり」を目指してまいりましょう。

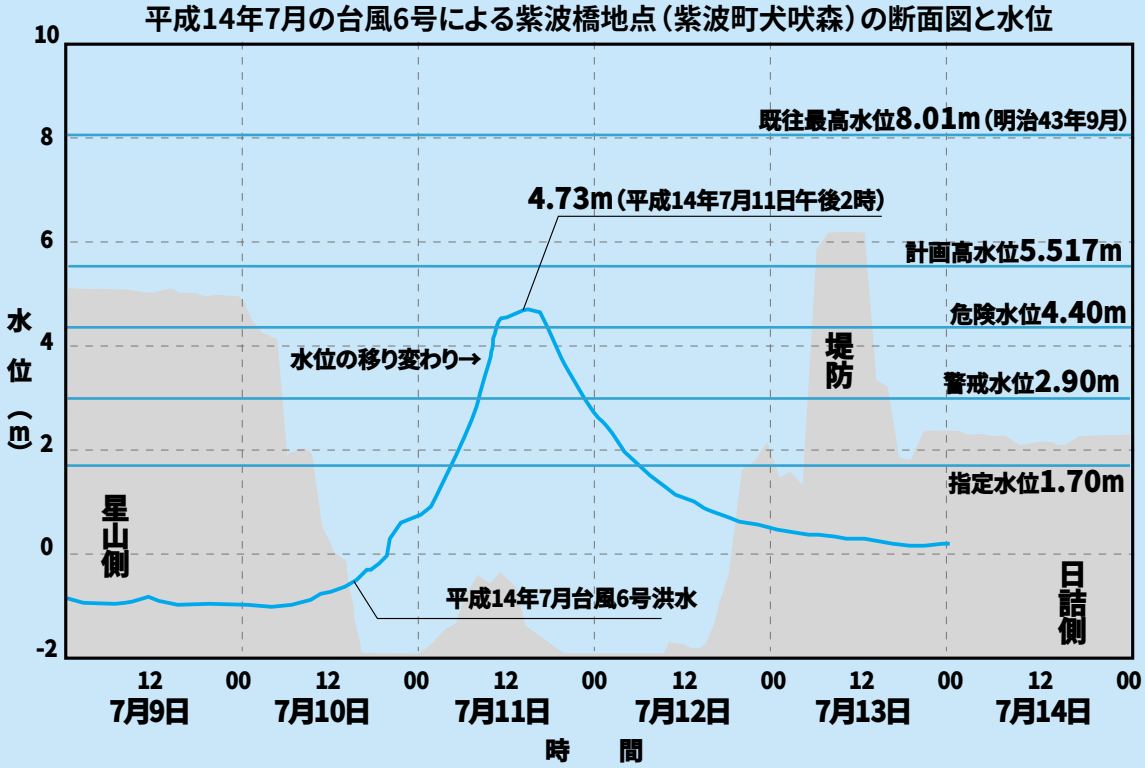
（藤原　孝）

万全ですか？災害への備え

平成14年に被害をもたらした台風6号から2年が経とうとしています。町では監視カメラのほか、今号と一緒に配布する「防災マップ」などで、確実な情報と避難方法を確保する努力をしています。皆さんも日ごろから防災に対する意識を持ち、家族と避難場所などを確認しておきましょう。

平成14年7月11日の台風6号通過直後の空撮

平成14年7月の台風6号による紫波橋地点（紫波町犬吠森）の断面図と水位



防災マップを活用しましょう

わたしたちの住む日本は、自然災害の発生が多い国と言われています。これまでも地震、火山、洪水、津波、土石流の災害で多くの人命が失われてきました。近年は、地球温暖化が要因と考えられる洪水、大型台風の多発、集中豪雨、氷河の崩壊など、これまでにない現象が世界各地で発生しています。

自然災害から、生命、財産を守るための防災土木などの進歩により、被害は少なくなってきていますが、防災対策の能力を超える自然災害が発生することもあります。こうした被害を最小限にくい止めるため、今号と一緒に「防災マップ」を配布します。家族や職場、地域の皆さんでご活用ください。

自然災害からの被害を最小限にくい止めるため、次のような災害予測情報を提供します。

第一は、皆さんが住んでいるところはどのような危険が予則されるかといった、洪水浸水想定、土石流、急傾斜地崩壊、地滑り、活断層の場所を地図に表して公表することです。

第二は、雨量、河川水位、ダム放流量などを即時にインターネット、電話、携帯電話サービスを通じて、危険な状況がどこまで迫っているか皆さんが判断できる情報提供をすることです。

町では、北上川が洪水により氾らんした場合の浸水想定区域、土石流危険区域、急傾斜

紫波消防署から

チェックしましょう　避難の準備

避難時の注意は家族でチェック

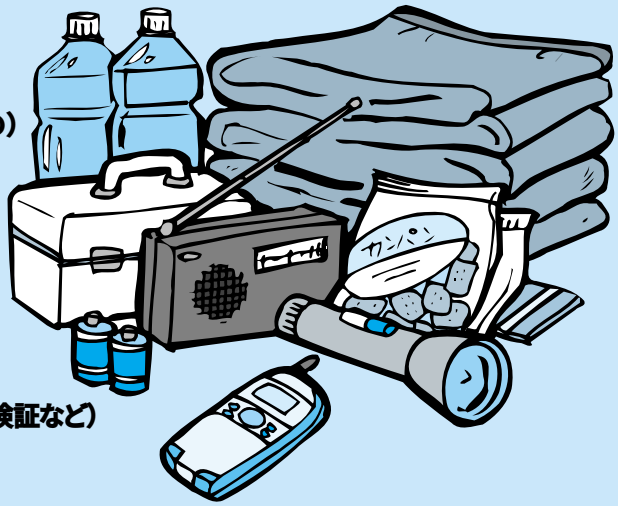
1.避難は必ず徒歩で、みんなと一緒に。
2.消防署、警察署、役場、
　自主防災組織リーダーの指示に従って。
3.持ち物は最少限に、服装は身軽に。
4.「山ぎわ」や「がけ」のそばに近づかない。
5.川や池の近くでは、増水に注意。
6.「下水」や「みぞ」にはまらないよう、足元に注意。
7.危険を感じたら、持ち物を捨てて身軽に。

ご存じですか？　避難時の心得

避難時にあわてないようにするためにも、日頃から非常持出し品を準備しておくとともに、避難場所や避難経路を確認しておきましょう。ご近所のお年寄りや障害のある人にも声を掛けて一緒に行動してください。

非常持出し品の事前準備をお忘れなく

準備しておくもの
- □ 飲料水（1日1人3リットル）
- □ 食料（すぐに食べられるもの）
- □ 懐中電灯、予備電池
- □ ラジオ
- □ 救急セット
- □ 衣類
  （手袋、タオル、下着など）
- □ 貴重品
  （現金、貯金通帳、印鑑、保険証など）



家族の状況によって
　準備しておくもの
- □ 家族に必要な薬
- □ ミルク、哺乳ビン
- □ オムツ
- □ 看護用品

※日ごろから、非常持出し袋に入れて準備しておきましょう。
※家族が2～3日過ごせるよう、食料や飲料水を備蓄しておきましょう。

地崩壊危険区域、地滑り危険区域、活断層帯、平成十四年七月十一・十二日の浸水区域を表した「紫波町防災マップ」を作成しました。防災マップをご覧になって自分の住んでいる場所は、自然災害が発生しやすいか、災害の危険が迫った場合どこに避難すれば良いか普段から家族で話し合いましょう。

特に雨量についての情報は注意をして、自ら警戒し危ないと感じたら災害発生前から次の行動を起こしましょう。

①避難準備のため非常持ち出し品準備と家財道具の処置

②組織的に避難場所への自主避難行動

③高齢者、障害者などの救助を必要としている人への援助、救助活動

④床上、床下浸水などの防止応急処置

自主避難後は、町に連絡してください。町は避難した皆さんに災害などの情報提供、避難中のさまざまな支援を行います。

紫波町防災マップは、インターネットのホームページにも掲載していますのでご覧ください。

●国土交通省（岩手河川国道事務所・北上川ダム統合管理事務所）による北上川河川情報の提供

国土交通省岩手河川国道事務所・北上川ダム統合管理事務所では、iモード携帯電話、ホームページ、電話応答案内により北上川流域の主要地点の水位・雨量情報などを提供しています。大雨や台風などにより洪水の恐れのあるときは、ラジオの気象情報などに注意して、早めに避難の準備をしてください。北上川に関することを詳しく知りたい場合はお問い合わせください。

北上川洪水情報サービス（電話応答サービス）	☎654-7066
ダム洪水情報サービス（電話応答サービス）	☎643-7978

携帯電話サービスアドレス	http://www.thr.mlit.go.jp/iwate/mobile/river/kitakami.html
ホームページアドレス	http://www.thr.mlit.go.jp/iwate/

●災害時に提供される電話関連情報

◆災害用伝言ダイヤル「171」

災害時に現地との電話連絡が集中し、かかりにくくなった場合に開始されるものです。家族などの状況を録音、再生することができます。利用する場合は「171」に電話し、アナウンスされる手順にそって、録音または再生を行ってください。

◆携帯電話ｉモード災害用伝言版サービス

大規模災害発生時、「iMenu」のトップに「災害用伝言板」が表示されます。メッセージの「登録」や、安否を確認したい相手の携帯番号を入力する「確認」を選択し、画面にそって入力します。

アドレス　http://dengon.docomo.ne.jp/top.cgi

●監視カメラによる映像情報

古館地区の赤沼川・岩崎川合流点および総合運動公園敷地内の下川原ポンプ場に監視カメラを設置しています。カメラ映像は、町内の各地区公民館などに設置した公共端末において防災情報のページから見ることができるようになっています。監視カメラの映像から、水位状況を確認することができます。

●ラジオ局周波数

AM 放送	NHK 第１	531kHz	IBC 岩手放送	684kHz・1062kHz
FM 放送	NHK FM	83.1MHz	FM 岩手	76.1MHz

6/27 古館地区で防災訓練

大雨災害を想定し、15機関団体が、孤立者救助訓練、応急食料炊出訓練など24項目の訓練を行います。

日時　６月27日（日）、午前９時～11時30分／**場所**　古館小学校

※見学者の駐車場はありません。見学は徒歩でお願いします。

※古館小学校に接している町道古屋敷土手１号線は約200ｍ区間交通規制され、午前８時30分～12時まで車の通り抜けができません。

平成十五年度 循環型まちづくり事業の成果

環境ミニ特集 1

紫波町は「循環の町」を目指しています。百年後の子どもたちに現在の環境をよりよい姿で残し伝えていくことを目的に、町民、事業者、町の協働によりさまざまな事業を進めています。この取り組みが評価され、平成十五年十一月二十八日には「循環・共生・参加まちづくり表彰」環境大臣賞を受賞しました。

平成十三年六月に制定した紫波町循環型まちづくり条例では、「計画に沿って進められた循環型まちづくりの成果について、毎年公表する」と定めています。条例に従い、平成十五年度の報告と十六年度の計画をお知らせします。

表１　平成15年度 循環型まちづくり事業の成果

【　】は事業費・事業量

有機資源循環	えこ３センターのたい肥製造施設第２次発酵棟建設・連絡道舗装工事、機械器具購入など【1 式、316,900 千円】
	農業情報を管理・公開するための紫波町版トレーサビリティー（生産履歴）システムの開発、整備【1 式、15,086 千円】
	家庭から出る生ごみの減量化を図るためのコンポスター補助金（2,000 円 / 基）【84 基、168 千円】
	下水汚泥を緑化基盤材にリサイクル（業者に処理委託）【1,000 m³、12,317 千円】
	有機資源循環・地産地消の取組を推進し、町内外に発信するために、おかき・硬化もち・うどんなどの特産品の販路拡大。（有）紫波フルーツパークによる「紫あ波せ」ブランドの商標登録。
森林資源循環	町産木材を活用して虹の保育園建設【999 m²、326,700 千円】
	虹の保育園の木質バイオマスエネルギー利用暖房設備工事（ペレットボイラー）【1 式、25,285 千円】
	間伐材を利用したぬくもり待合所建設工事（赤沢、片寄、升沢地区）【3 棟、2,175 千円】
	サンビレッジ紫波隣接地に、上平沢小学校旧校舎木材を再利用したイベントハウスを建築【8 棟、549 千円】
	地域住民の森林資源への関心を高めるために開催したフォーラム事業に対し補助【1 式、325 千円　NPO 法人紫波みらい研究所】
	町産木材利用の住宅に対する利子補給・固定資産税減免制度を創設し、町産木材の需要拡大を図る
無機資源循環	ごみ集積所整備事業補助金【7 件、294 千円】
	資源物保管施設整備事業補助金【1 件、70 千円】
	資源リサイクル運動奨励補助金【76 団体、3,471 千円】
	マイバック運動協力店啓発活動補助金【1 式、200 千円　紫波町商工会】
	エコ・ショップ制度、マイバッグ運動を推進する紫波町ごみ減量女性会議の設立支援
	ごみ分別、野外焼却規制、省エネ説明会の開催【44 団体、2,431 人】
	道路整備事業への再生資材（砕石、アスファルト）の使用【整備延長　1,053 m】

古紙の再利用化（エコオフィス推進）

間伐材を利用したぬくもり待合所

省エネ体験学習「Kids ISO（入門編）」ワークブック

平成十五年度事業のあらまし

町では、環境を良好に保ち、さらに良くしていくために、環境に負荷をかけないようにする資源の循環に取り組んでいます。また、同時に環境や資源循環の学習を進めています。

平成十五年度は、次の四つの課題に取り組みました。

① 「有機資源循環」の一環として、町内で発生する畜産廃棄物や事業所から排出される食品残さなどの有効利用を進める拠点として、高品質たい肥製造施設「えこ3センター」を整備しました。また、ここで製造されたたい肥の有効活用による農産物の差別化、地産地消の拡大や産直の活性化を進めるために、紫波町版トレーサビリティーシステムを開発しました。

② 森林資源を有効活用することで森林を保全し山を育て、林業を再生することを目指す「森林資源循環」の一環として、町産木材を活用して虹の保育園を建設し、木質ペレットボイラー暖房も取り入れました。また、町産木材を使った木造住宅の建築を促進するために新たに補助制度を創設しました。

③ 現在、ごみとして出されている「無機資源」の廃棄を削減するために、発生抑制（リデュース）、再使用（リユース）、再生利用（リサイクル）のしくみづくりを進めています。具体的には、地域でのリサイクル活動の支援や町民のみなさんと共にごみ問題などについて考えるごみ分別説明会の実施、ごみ減量女性会議の設立支援などです。

④ 環境や資源循環を切り口として、大人の経験を子どもに伝える、子どもの発見を大人に伝えるなどの世代間の交流を図りながら、環境学習を進めました。

実施した事業の具体的な内容は、「平成十五年度循環型まちづくり事業の成果」（表1）のとおりです。

46人の生徒が参加した共生植林事業

住宅用太陽光発電システムモデル施設（第三庁舎屋上）

エネルギー対策	**省エネ体験学習「Kids　ISO（入門編）」への取り組み** （11小学校 248 人、1中学校 16 人　計 264 人） **【1 式、400 千円】**
	（財）省エネルギーセンター事業の省エネ教室として、実験や映像により省エネを体験する出前型授業（2 小学校、404 人）
	新エネルギー財団の補助事業による太陽光発電システム設置住宅に対し1 kw 当たり5万円を補助【46 件、6,810 千円】
	住宅用太陽光発電システムの普及啓発を図り、モデル的に第三庁舎に導入【太陽電池最大出力:4.42kW、3,253 千円】
	町役場の事務や事業により排出される温室効果ガスの削減を計画的に推進する紫波町エコオフィス推進実行計画の策定
その他	**●環境学習**
	地域と学校の共同による環境学習事業（教育振興運動協議会、中高生社会参加活動による資源回収、クリーン作戦）　2,500 人／**全中学校による環境美化活動、ゆうごうセミナー** 11講座で環境学習を実施　387 人
	環境学習・出前講座の実施【女性団体、小・中学校 12 団体、437 人】
	自然との共生植林事業　6 月 8 日、平成の森で開催。講師：地球温暖化防止活動推進員、熊の専門家／指導：岩手中央森林組合、山野草の会。動物との共生や環境保護について勉強し、下草刈りや苗の補強などの森林の管理作業や植樹を体験 **【紫波一中 1 年生 46 人参加、160 千円】**
	人権養護啓発活動事業（心と緑のすくすく事業）　9 月 13 日、城山公園で開催。高木・低木約 200 本を植樹。講師:岩手環境アドバイザー／指導：岩手中央森林組合、山野草の会。心の健全な育成と自然環境の保全、緑の環境づくりに対する意識の高揚を図る**【86 人（内小学生 48 人）参加、1,304 千円】**
	環境学習支援　NPO「川を知る会」への機材（ゴムボート）購入補助【1 式、500 千円】
	●ＮＰＯ法人紫波みらい研究所委託事業【1 式、6,810 千円】
	環境探検隊 第 6 回　北上川川下り　15 人（H15 年 9 月 7 日） 第 7 回　間伐体験　37 人（H16 年 3 月 21 日、山屋地区・虹の保育園）　計 52 人
	地産地消の推進事業ワン・コイン・セミナー「もっと知ろう!食のこと」の実施 第 1 回「紫波もちもち牛が美味しいわけ」17 人（H15年8月21日） 第 2 回「産直の上手な利用法」18 人（H15 年 9 月 4 日） 第 3 回「有機農産物づくりへの挑戦」29 人（H16 年 3 月 18 日） 計 64 人
	森と家づくりの会（森林資源循環フォーラムとの合同事業） 森の小さな音楽会　100 人（15 年 6 月 8 日）

環境ミニ特集 1

平成十六年度 循環型まちづくり事業の計画

平成十六年度事業は、表の「事業計画」に基づいて進められています。

平成16年度に実施または実施予定している循環型まちづくり事業の計画の一覧

有機資源循環	平成15年度に開発した紫波町版トレーサビリティーシステムの運営
	えこ３センター第２次発酵棟のたい肥置場２区画の増設
	生ごみ減量化の取り組み（コンポスター補助金）
	産業廃棄物リサイクル処理事業（下水汚泥を緑化基盤材に活用）
	特産品の販売と「紫あ波せ」ブランドの確立
森林資源循環	町産材を利用したぬくもりのある机・いすの整備（長岡・彦部小学校224セット）
	県産材を利用した消防屯所の新築（赤石：第７分団第３部消防屯所）
	ペレット製造設備（原料乾燥機、成形機、冷却機）の設置
	ペレットストーブ購入費の補助
	町産木材利用の新築木造住宅に対する建設資金利子補給・固定資産税減免（補助期間：５年以内）
無機資源循環	ごみ集積所整備事業補助金（鉄骨造：３万円／件上限、木造：５万円／件上限）
	資源物保管施設整備事業補助金（７万円／件）
	資源リサイクル運動奨励補助金（紙・金属・繊維類：５円／kg、びん類：２円／本）
	マイバック運動協力店啓発活動補助金
	ごみ減量女性会議の支援
	エコ・ショップしわの認定による活動支援
	ごみ分別、野外焼却規制、省エネ説明会の実施
	グリーン購入の推進
	道路整備事業への再生資材の使用
エネルギー対策	省エネ体験学習「Kids ISO」への取り組み（入門編）
	住宅用太陽光発電導入促進事業費補助
	まちぴか応援プログラム活動支援（アダプト・プログラム）
その他	**環境学習**
	環境学習・出前講座の実施
	自然との共生植林事業
	人権養護啓発活動事業（心と緑のすくすく事業２）
	「地域における伝承聞き取り保存事業」委託（ＮＰＯ法人紫波みらい研究所）
	ＮＰＯ法人紫波みらい研究所への循環型まちづくり委託事業
	紫波地元学の実施（環境探検隊、地域聞き取り調査研究）
	地産地消の推進事業の実施（地産地消栽培体験、ワン・コイン・セミナー）
	農村文化研究（暮らしの中に息づく歴史や文化を見直し、今後に伝える）
	森と家づくりの会（セミナー、森の探検隊）

環境ミニ特集 2

「エコ・ショップしわ」初の認定！

～環境に優しいお店応援します～

五月十日、盛岡南ショッピングセンター（ナックス）、マックスバリュ紫波店の二店が、初の※「エコ・ショップしわ」として認定されました。

審査は、※紫波町ごみ減量女性会議（瀬川智子会長）が行い、十九項目のうち四項目以上の取り組みが認められた店舗を町長が認定します。審査の結果、盛岡南ショッピングセンターは十三項目、マックスバリュ紫波店は十四項目について認められました。

その主な内容は、包装の簡素化、ばら売りによるトレーの削減、マイバッグの利用によるレジ袋の削減などのごみ減量化、リサイクルによる資源の有効利用、従業員の環境に関する意識の徹底などです。審査に当たったごみ減量女性会議からは、二店とも消費者の声をよく聞き、多くの項目について努力し、成果を上げていると評価されました。

認定証とステッカーの交付後、藤原町長が、循環型まちづくり推進のため、今後もこの制度に協力してほしいとあいさつし、盛岡南ショッピングセンターの田森悠太郎理事長、マックスバリュ紫波店の松坂正之店長からは、これからも地域の環境保全のため努力していきたいとの決意が述べられました。

この二店に続く、エコショップしわ三号店、四号店の登場が期待されます。

問合せ
環境課循環政策室☎672-2111 内線5521 有線01-8972

用●語●解●説

※「エコ・ショップしわ」認定制度
ごみの減量化やリサイクル活動など、環境に優しい取り組みを積極的に行っている町内の小売店舗を「エコ・ショップしわ」として認定し、応援するもので、二月に創設しました。町民と事業者と町の連携のもと、循環型社会構築に向け、環境に優しい生活様式を確立することを狙いとしています。

※紫波町ごみ減量女性会議
町内の女性八団体と赤石生活学校から選出された九人で構成される団体で、マイバッグ運動や食品トレーの削減など、生活者の視点からごみの減量に取り組んでいます。

環境ミニ特集 3

CO_2削減成果は着々です！ 町役場のエコオフィスへの取り組み

地球温暖化防止対策の一環として平成十五年三月に策定したのが紫波町エコオフィス推進実行計画です。平成十三年度の数字を基準に、資源循環による環境負荷低減に努めています。

計画では推進施設、準推進施設を定めて取り組みをしています。左表は推進施設における主に省エネルギーを掲げて推進してきた年間電力・燃料系消費量や用紙類などの現状をお知らせするものです。

また、計画では十八年度までの四年間で燃料種別ごとの消費量を六パーセント削減することを目標にしています。

平成十六年三月に、国が定めたグリーン購入法の規定に基づき、「庁用環境物品等の調達の推進に関する基本方針」を定めました。町が環境負荷の低い原材料、部品、製品および役務の調達を総合的かつ計画的に推進するための基本的事項を定めたものです。また、町民、事業者についてもこの基本方針を参考に、町と相互に連携して環境に優しい物品の購入に努めてほしいものです。

具体的な取り組みとして、平成十六年度は紙類や文具類など十三分野にわたり、環境負荷の少ないものを調達することを目標にしています。

問合せ 総務課☎672-2111 内線3121 有線01-8932

紫波町役場エコオフィス実行計画推進の取り組みによる 平成15年度実績の公表

- 昼休みの消灯
- 新聞紙削減
- コーヒーメーカーと電気ポットの廃止
- グリーン、エコ製品の購入（40品目）
- 古紙利用率73%に
- 電子メールによる会議通知
- 例規データベースによる例規集のペーパーレス化

電力	平成13年実績	684,689kwh
	平成15年実績	725,122kwh
	平成18年度目標（6%削減）	643,608kwh
灯油	平成13年実績	84,441リットル
	平成15年実績	73,264リットル
	平成18年度目標（6%削減）	79,375リットル
重油（四施設）	平成13年実績	119,000リットル
	平成15年実績	107,325リットル
	平成18年度目標（6%削減）	111,860リットル
LPガス	平成13年実績	4,019m³
	平成15年実績	3,946m³
	平成18年度目標（6%削減）	3,778m³
自動車（ガソリン・四十六台）	平成13年実績	36,780リットル
	平成15年実績	34,723リットル
	平成18年度目標（6%削減）	34,573リットル
自動車（軽油・五台）	平成13年実績	4,439リットル
	平成15年実績	4,728リットル
	平成18年度目標（6%削減）	4,173リットル
水道	平成13年実績	10,712m³
	平成15年実績	10,658m³
用紙類（A4版換算）	平成13年実績	6,266,542枚
	平成15年実績	3,340,856枚

エアコン・パソコン導入

宮澤賢治の友人 かとうじ物語

連載 第1回

どっこ舎　内城弘隆　作

町の先人藤原嘉藤治の顕彰が自発的な町民運動として始まっています。宮澤賢治とのかかわりも深い嘉藤治の、生い立ちから業績を、連載「かとうじ物語」として日詰の内城弘隆さんに寄稿していただきます。

はじめに

紫波の先人藤原嘉藤治は、宮澤賢治の創作と実践活動の身近にいて、早くから作品の価値をわかり、賢治亡きあと、その作品を世に出すためにがんばりました。戦後は賢治の精神を実践に移して開拓農民となり、東根山の麓に人生を全うしました。

地元の人々は「開拓のかとうつぁん」と呼んでいますが、嘉藤治は宮沢賢治の友人というだけでなく、音楽人、詩人、編集人など独自の功績もあり、人々に注目されています。

皆様にはこのささやかな物語から、何かを感じとっていただければ幸いと思います。

一、嘉藤治のおいたち

明治二十九年二月十日、旧水分村小屋敷の藤原家に男の子が誕生しました。名は嘉藤治といいます。しかし、家庭の事情により嘉藤治は間もなく他家にもらわれていくことになりました。その先は旧不動村白沢（しらさわ）の博労（ばくろう）（家畜仲介人）、菅原豊治郎とその妻ソノの家でした。

二人には子どもがなく、栄養不足でやせ細った嘉藤治を喜んで迎え、大事に育てました。ところが皮肉にも、その後、夫妻には、いわゆる「やかねっこ」といわれる子どもが三人も生まれました。でも、菅原家の人々はこの子どもらを分けへだてなくかわいがり、嘉藤治も義理の弟妹の面倒をよくみたそうです。四人の兄弟は終生仲良く、互いに支え合いました。

「白沢村物語」の編集委員長佐々木民五郎さん（八十二歳）は嘉藤治が子ども時代よく遊んだ場所に案内してくれ、こんな話もしてくれました。

「この辺りは馬場野（ばばの）といい、豊治郎の本家の馬場（ばば）（屋号）の土地だ。ここに堤があった。あの森や原野、その堤は嘉藤治の遊び場だった。学校から帰ると、嘉藤治は道具の風呂敷包みを台所さ放り出し、水浴びだの雑魚（ざっこ）捕りに夢中だったど」

嘉藤治が育った矢巾町白沢・馬場野の風景

嘉藤治が晩年に書いた本の中に「太田川は浅瀬あり、急流あり、淵ありで結構この上ない自然のプールだった。かわせみは光のつゃを流し、ミンミン蝉は奏で、いつ終わるともない河童どもの川辺の祭りを祝福してくれる。」と述べています。秀麗岩手山を北に望み、西には南昌、東根の山並みを仰ぐ白沢の地は、嘉藤治の詩と音楽への憧憬をはぐくみ、またものごとを真剣に追求しようとする気持ちを育てたホームグラウンドなのです。

嘉藤治は不動高等小学校を終えてなお向学心に燃え、日詰の紫波高等小学校に一年間歩いて通いました。そして実の兄広治に習い、岩手師範学校へ進んで音楽教師の道を目指しました。師範学校に入学した時、義父豊治郎は立派な袴を買って与えたそうです。

白沢の人々の心の優しさもまた嘉藤治を心豊かな人に成長させたようです。

かとうじ山の音楽会

かとうじ山の音楽会実行委員会ではユニークな音楽会を開催します。高村光太郎の詩「開拓に寄す」の朗読、地元の子どもたちによる野外劇「どんぐりと山猫」、みんなで一緒に歌う「音楽会」など、見て、聞いて、参加する音楽会です。さらに広場では嘉藤治パネル展、建物内では嘉藤治収集セノオ楽譜展を併催します。

- **日時**　六月二十日（日）、午後一時～三時
- **場所**　ビューガーデン芝生広場（水分）　※雨天時はラ・フランス温泉館交流プラザ紫波
- **入場料**　無料
- **問合せ**　水分公民館☎673-8222

上手に！　元気に！
介護保険
～体験談紹介～

担当　介護保険室 ☎672-4522

今回ご紹介するのは、約一年前に一時寝たきりとなった赤沢の川村藤一さん（八十六歳）です。歩行困難な状態からつらいリハビリを重ねることで、ついに歩けるようになりました。家族からの精神的な支えと介護保険の適切な利用でこれまでの道のりを乗り越えてきました。

「腰から下がまったく動かなかった。今では段差のない室内であれば歩けるようになった。家族の協力で、退院に合わせて住宅を改修したので家での移動はほとんど苦にならない。今は外を歩く練習もしている」と優しい笑顔で話し、器具を使わず部屋を歩いて見せてくれました。

住宅改修と訪問リハビリで歩けるように

藤一さんにとってリハビリは、想像していた以上に苦痛でした。立つ練習の基礎をはじめ、つかまり立ちや平行棒での歩行訓練など、泣きたいくらいつらかったそうです。そのつらさを乗り切る一番の原動力となったのは「必ず治る」という家族の応援でした。

さらに息子さんたちは、藤一さんの自宅での生活に備え、住宅の改修もしました。「とにかく家族への感謝の気持ちでいっぱい」と、お邪魔した日、藤一さんは目に涙を浮かべて話してくれました。

いまは、リハビリにも徐々に慣れ、「一人で自由に歩き回りたい」と目標に向かって頑張っています。日課はエアロバイクに乗ること。一日二回無理せず続けているそうです。

ケア・マネジャーから

にいやま荘居宅介護支援事業所
介護支援専門員　戸塚京子さん

川村さんは平成十五年三月から介護保険を利用しています。介護サービスの内容は、週二回の訪問介護による入浴のほかに、月二回の訪問リハビリによる訓練です。歩行困難な状態から、車いすで移動できるようになり、今では歩行器を利用し、家の中を自在に歩いています。それは作成したケアプランを即実践され、筋力強化、安定歩行の練習などを熱心に続けているためでしょう。家族の期待に、本人が応え、また家族が応援する……まさにご本人の努力と家族の協力の成果が実ったと言えるでしょう。

【介護保険ワンポイント】

訪問リハビリとは…

自宅にリハビリの専門家が訪問し、リハビリ（機能回復訓練）を行なうサービス。

しわネット6月号　平成16年6月10日発行　発行◆紫波町
〒028-3390 岩手県紫波郡紫波町日詰字西裏23-1
担当／政策経営課☎672-2111
印刷◆川嶋印刷株式会社

シリーズ
『あの日』の思い出に会いに

アルバムにはられた
あの日の紫波町
スローな昔の生活をのぞき、
心をいやしてください。

早朝野球大会

昭和四十六年　広報しわ掲載写真

今年も五月九日から、早起き野球の熱戦が繰り広げられています。現在は八チームのリーグ戦とトーナメント戦で県大会出場を目指し、週二回、町営野球場と河川グラウンドで試合が行われています。昭和四十年代に早朝野球大会として始まったこの大会は当時十九チームが参加し、優勝チームを先頭にパレードも行われていました。

早朝五時半から五回戦コールドゲームなしのルールは今も変わりませんが、会社の名誉を担って出場していた職場チームの参加がなくなり、現在は地域を中心としたチームで、若い人たちにフェアプレーが引き継がれています。

（左上写真）昭和46年6月、前年優勝の企業チーム「不二家」を先頭に日詰商店街をパレード

（右上写真）5月9日に行われた開会式。水分クラブ、佐藤友泰主将の選手宣誓

講師の佐々木さん（写真前中央）は、以前東京に住んでいたころ友だちに誘われてレザークラフトを習得。地域の人に教えるようになって十五年ほどになります。生徒の皆さんも慣れた手つきで刻印を打ち、好きな色を塗って仕上げていました。

レザークラフト教室は毎週水曜、佐比内公民館（☎674-2626）で昼・夜開催。材料費のみで習うことができます。教室の作品は本庁舎１階ロビーに７月末まで展示しています。

誌上アートコレクション

今回の作品
レザークラフト教室の皆さんの作品

指導
佐々木栄子さん
（佐比内）

使うほど手になじむ手作りの革製品は、修理したり色を塗り替えたりすることで、新品の輝きを取り戻し、長く愛用できます。

おわびと訂正
５月号で紹介した藤尾良一さんは宮手でした。訂正しておわびいたします。

R100
古紙配合率100%再生紙を使用しています